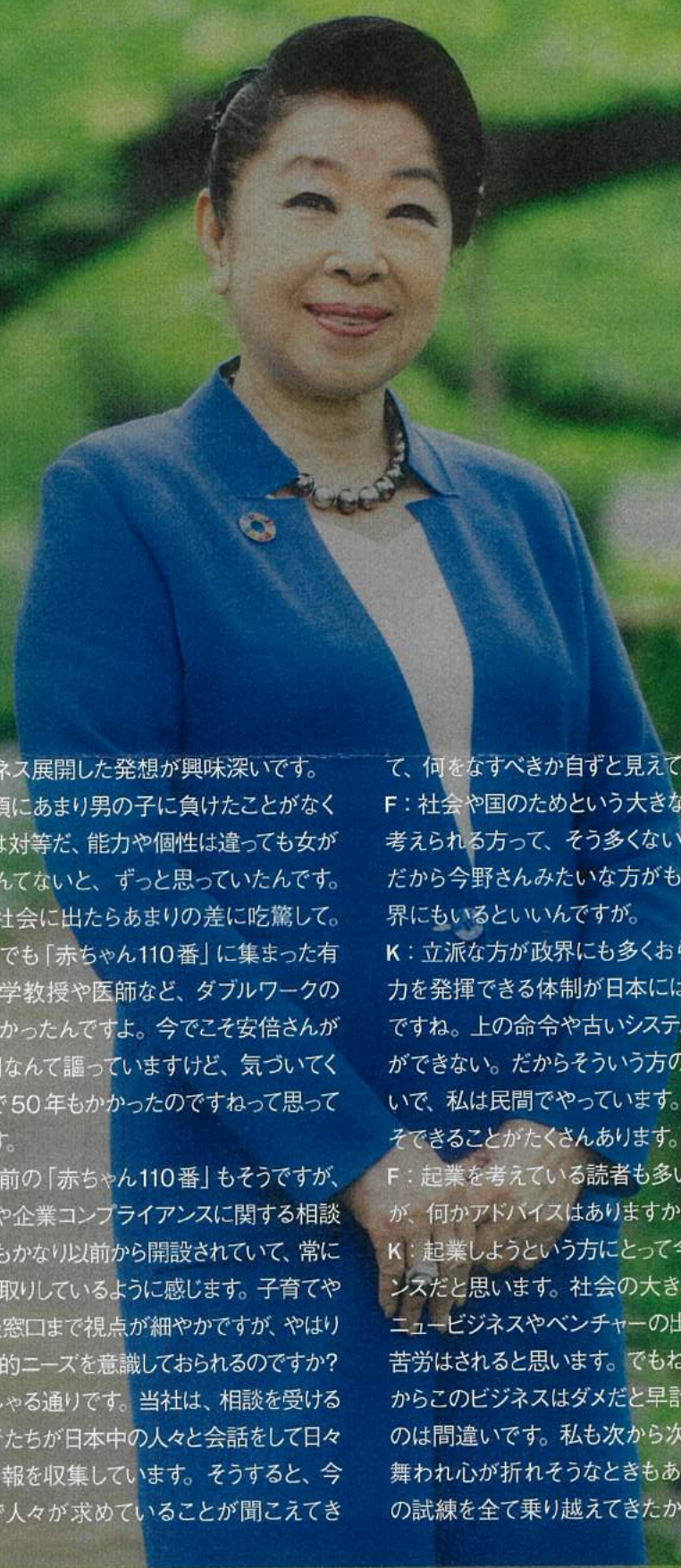
THE NIKKEI MAGAZINE STYLE Ai
2020年5月24日売号掲載

Yuri Konno

"コロナ鬱"や"コロナ疲れ"という言葉を目にしない日はない。
ウイルス感染のみならず、精神を蝕む恐れや不安とも私たちは対峙している。
「ダイヤモンド・プリンセス号」の乗客やクルーの医療相談を担っていた会社がある。
その経営者は、世界初の電話相談ビジネスを展開した女性起業家・今野由梨さんだ。
苦しい時代に起業した彼女が今なにを語るのか。
オンラインでインタビューに臨んだ。
——編集長・藤谷英志

Photo:Masaru Furuya Text:Sari Kim



PROFILE
今野由梨

1936年三重県生まれ。津田塾大学英文学科卒業。女性起業家の草分けで「ベンチャーの母」の異名を持つ。1969年「ダイヤル・サービス」設立。1987年NYに「ダイヤル・サービス・インターナショナル」設立、「米国女性経営者200人の会」初の日本人となる。1993年「財団法人2001年日本委員会」理事長に就任。受賞歴は1985年情報化月間・郵政大臣賞、1998年世界優秀女性起業家賞など。2007年旭日中綬章受章。内閣府「生活産業創出研究会」他、過去40を超す審議会の公職歴がある。著書に『だいじょうぶ。』(ダイヤモンド社)他。

藤谷(以下F):今野さんは電話相談窓口の会社を経営されていますが、新型コロナウイルスの感染広がりの中で、厚生労働省と協力してダイヤモンド・プリンセス号の乗客やクルーのための相談窓口を開設されていたそうですね。どういった経緯で進められたんでしょうか。

今野(以下K):そもそも世の中に大きな変化が起き、人々が困っている時に手を差し伸べることが当社の原点なんです。今回もコロナ禍が始まり、ダイヤモンド・プリンセス号のニュースを耳にし、船内にいる方のために何か力になれたらという想いから実現しました。電話やLINE相談はもっとも得意とするところですから。

F:電話における相談サービスは、今野さんが世界で初めて切り開いたビジネスだとか。

K:会社をスタートさせたのは50年前、育児ノイローゼで子殺しの事件が多発した時代で、育児に悩む母親のための「赤ちゃん110番」が始まりでした。当時は電話サービスなんていう概念がなくて、電話回線をパンクさせて電電公社の方から何度もお咎めを受けましたね。でもそれほどに助けを求めている女性が大勢いて、周りに叱られたからといってやめるわけにはいかなかったのです。

F:当時は通信料に情報料の課金は禁じられていましたが、その法規制を改正させたほど社会現象を巻き起こしたと聞いています。

K:最初は起業家になるなんて考えたこともありませんでした。地方から上京して津田塾に進学し、未来に夢を抱いていたのにすべての企業で落とされました。当時の日本企業は男性社員の「おいコーヒー」に「はい」と素直に従う女性を求めているのであって、私のような意見を述べる女などいらないのだと言われました。おかげで心が決まりました。女性だけの会社を作って、時代を変えてみせると。

F:それでも就職ができなかったから起業しようとはなかなか思えないですよ。

K:起業の決意を胸に海外を10年放浪して帰国したら、先ほど話した子殺しの事件が日々の新聞を賑わせていたんです。また急激な経済発展を遂げる中で若者達が都会に吸い寄せられ、地方や家族が崩壊したり、孤独な老人や将来に悲観した若者の自殺も増えていました。もはや私の知っている日本ではなかったんですね。とにかく今はこの国を変えなければと強く思って、まずは育児に悩む母親たちの悲鳴を聞いて受け止めたいと呼びかけたら、多くの女性が賛同してくれたのです。

F:単純に男性と同じ土俵で競うのでなく、女性だけの会社を立ち上げ、女性ならではの視点でビジネス展開した発想が興味深いです。

K:幼い頃にあまり男の子に負けたことがなくて、男女は対等だ、能力や個性は違っても女が劣る点なんてないと、ずっと思っていたんです。ところが社会に出たらあまりの差に吃驚して。あの時代でも「赤ちゃん110番」に集まった有志には大学教授や医師など、ダブルワークの女性も多かったんですよ。今でこそ安倍さんが女性活用なんて謳っていますけど、気づいてくださるまで50年もかかったのですねって思ってしまいます。

F:50年前の「赤ちゃん110番」もそうですが、セクハラや企業コンプライアンスに関する相談窓口などもかなり以前から開設されていて、常に時代を先取りしているように感じます。子育てや介護相談窓口まで視点が細やかですが、やはり常に社会的ニーズを意識しておられるのですか?

K:おっしゃる通りです。当社は、相談を受ける現場の者たちが日本中の人々と会話をして日々様々な情報を収集しています。そうすると、今の社会で人々が求めていることが聞こえてきて、何をなすべきか自ずと見えてくるのです。

F:社会や国のためという大きな視点でものを考えられる方って、そう多くないと思うのです。だから今野さんみたいな方がもっと政治の世界にもいるといいんですが。

K:立派な方が政界にも多くおられますが、能力を発揮できる体制が日本にはなかなかないですね。上の命令や古いシステムに逆らうことができない。だからそういう方の想いも引き継いで、私は民間でやっています。民間だからこそできることがたくさんあります。

F:起業を考えている読者も多いと思うのですが、何かアドバイスはありますか?

K:起業しようという方にとって今はすごいチャンスだと思います。社会の大きな変革期こそ、ニュービジネスやベンチャーの出番。ただ必ず苦労はされると思います。でもね、試練が多いからこのビジネスはダメだと早計に判断をするのは間違いです。私も次から次へと試練に見舞われ心が折れそうなときもありましたが、その試練を全て乗り越えてきたからこそ、いまの私は国内外の多くの方から信頼していただけるのです。試練こそ自分に与えられた大きな贈り物。もしかしたら第二、第三の幕ももっと厳しい試練が待ち受けているかもしれないけど、幕が上がるごとに自分のステージの何かが変わっていることに気づけるものです。自分を信じられれば絶対に明日はあると私が約束します。

F:勇気づけられる人が多いと思います。ご自身はこれから何かしたいことがありますか?

K:当社は技術の進歩に伴い、電話からFAX、メール、SNSなど手段を変えながら対応を進めてきました。次のステージではAIを活用したいと思っています。また、地方創生の応援をしています。何百年も続いてきた伝統工芸や、それを担ってきた職人たちを新しい形で繋いでいきたいのです。お年寄りや女性が何の価値もないような生き方を強いられることを私は絶対に認めません。この国に生まれてよかったと実感しながら最期を幸せに旅立てる国にしたい。私84歳ですが、そういう使命のためにあと50年は頑張るぞと思っています。

THE NIKKEI MAGAZINE STYLE Ai 2020年5月24日号

編集長 *Editor in Chief*
藤谷英志(講談社)
Hideshi Fujitani(Kodansha co., ltd)
編集次長 *Deputy Editor in Chief*
新井美穂子(講談社)
Mihoko Arai(Kodansha co., ltd)
エディター *Editor*
湯澤実和子 *Miwako Yuzawa*
エディター *Editor*
青木良文 *Yoshifumi Aoki*
エディター *Editor*
髙橋真理子 *Mariko Takahashi*
エディター *Editor*
金紗利 *Sari Kim*
英文翻訳 *Translator*
岩渕デボラ *Deborah Iwabuchi*
アートディレクター *Art Director*
橋田浩志 *Hiroshi Kitta(attik)*
編集 *Editorial*
講談社 *Kodansha co., ltd*
〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
2-12-21 Otowa Bunkyo-ku Tokyo
発行 *Publishing*
日本経済新聞社 *NIKKEI inc.*
〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7
1-3-7 Otemachi Chiyoda-ku Tokyo
印刷 *Printing*
竹田印刷 *TAKEDA Printing co., ltd*

CONTENTS

5 Editor's Letter 6 Ai I EYE -*FASHION*- 7 Ai I EYE -*BEAUTY*-
8 Jewelry and watches:the synergic effects of brilliance
12 jewelry and watches for your hands
16 GIORGIO ARMANI 18 styling/ 19 Ai's FOCUS
20 BEAUTY Make-up 22 BEAUTY Haircare
24 euglena 27 Time of the Star

記事内の商品価格はすべて本体のみ(税抜き)の価格です。 All Prices are tax excluded. ©Kodansha 2020 本誌の記事・写真・イラスト等を無断で複写、複製、転載することを禁じます。
編集内容に関するお問い合わせ 講談社 第二事業局 TEL03-5395-4628 ai@kodansha.co.jp 広告その他に関するお問い合わせ 日本経済新聞社 クロスメディアユニット営業部 TEL03-6256-7480

※新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大状況を考慮して「World Trip」は当面の間休載いたします。

Cover/ Photo:Akinori Ito(aosora) Styling:Misaki Ito Hair:KENSHIN for Epo Hair Studio Make-up:Tomohiro Muramatsu(sekikawa office) Coordination:Miwako Yuzawa
ブレスレット「ルド ブレスレット」(ホワイトゴールド×イエローゴールド×ダイヤモンド17石)¥6,600,000、リング〈人差し指〉「ペルレ シニアチュール リング」(イエローゴールド)¥244,000、〈中指すべて〉「ペルレ ゴールドパール リング」ミディアムモデル(イエローゴールド)各¥123,000、〈薬指、指先から〉「ペルレ シニアチュール リング」(イエローゴールド)¥244,000、「ペルレ ゴールドパール リング」3連モデル(イエローゴールド)¥269,000/ヴァン クリーフ&アーペル(ヴァン クリーフ&アーペル ル デスク)、シャツ¥45,000/ヴィクトリア ヴィクトリア・ベッカム(イーストランド)